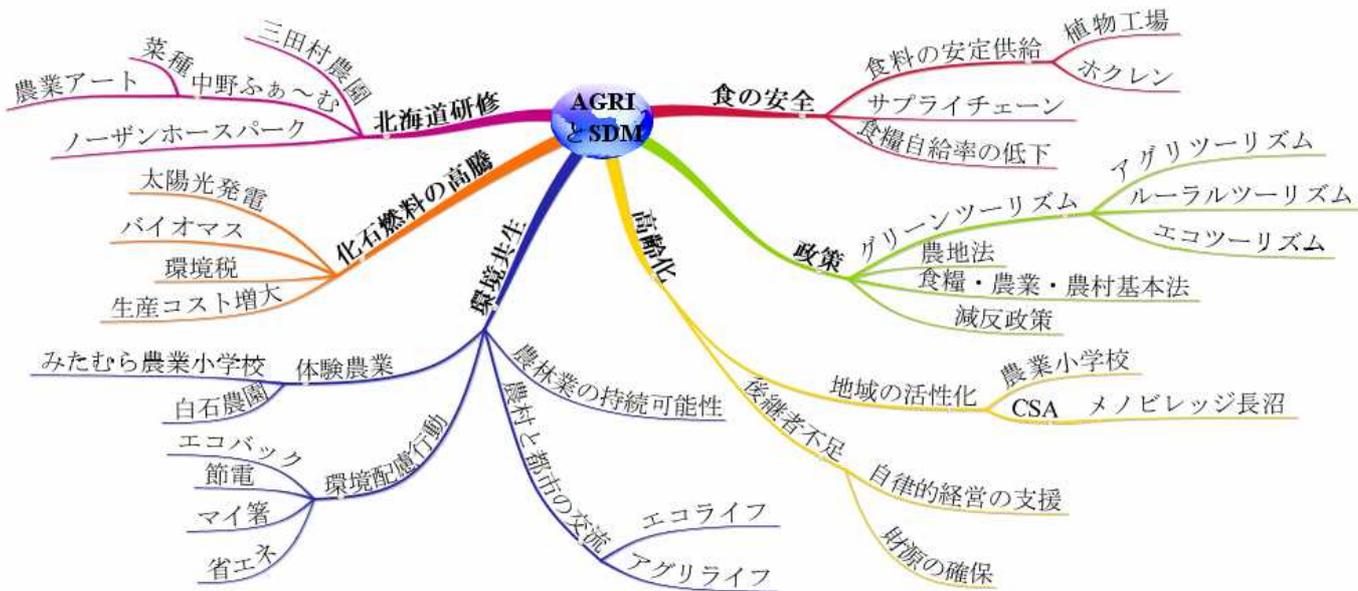


AGRI(アグリ)ゼミ 活動紹介

所属 システムデザイン・マネジメント研究科
氏名 林 美香子

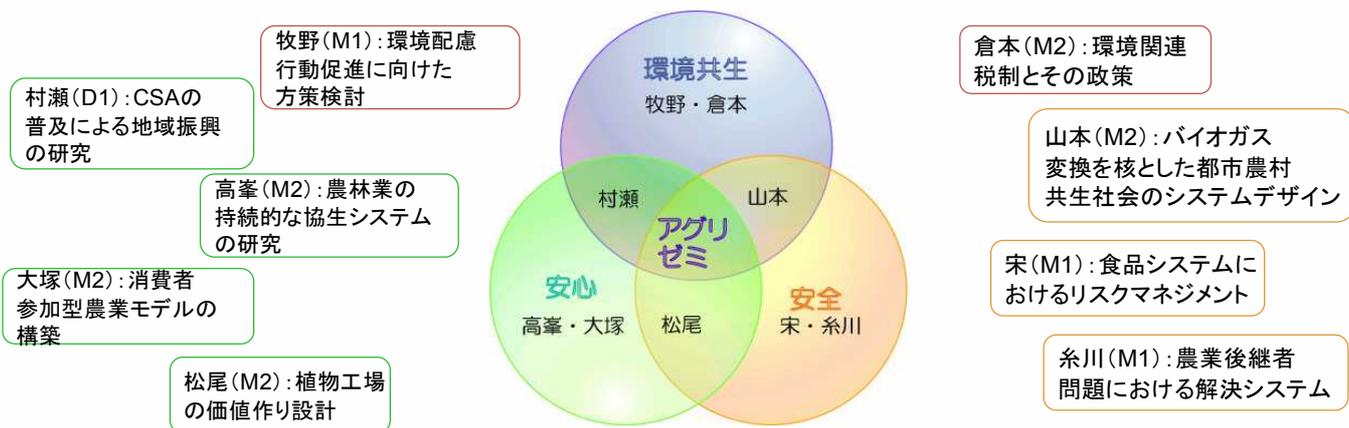
1. アグリとSDM



我々アグリゼミは多視点で農業・農村を捉え、

SDM的アプローチによる農業・農村の次世代の姿をデザインし、社会へ発信します！

2. アグリゼミとしての取り組み内容



3. 教員紹介



林美香子教授

☆AGRIゼミへの期待☆

テーマは持続的食料生産システム。自然エネルギーを活用する農業、農村ボランティアが活躍する農業... 広汎な視野から農業・農村の未来をデザインしたい。

佐々木正一教授

☆AGRIゼミへの期待☆

農業も含めて、安心安全な社会に日本が変革できるアイデアとその実証を期待しています。



前野隆司教授

☆AGRIゼミへの期待☆

農業システムは、技術、経済、人間心理、コミュニティー、自然環境、安心安全といった様々な価値を含む大規模複雑システムです。日本や世界を救う新提案を期待しています。

AGRI(アグリ)ゼミ 活動紹介

所属 システムデザイン・マネジメント研究科
氏名 林 美香子

AGRIゼミ 北海道現地調査報告書

1. 調査概要

- 1) 目的：北海道の地で先進的な取り組みを行う農家や酪農家の方々と触れ合い、語り合うことを通じて、農を取り巻く状況を自身の肌感覚で体感すること
- 2) 日程：平成21年9月11日(木)～13日(土)
- 3) 場所：北海道 長沼町 由仁町 滝川市 栗山町など
- 4) 参加者：林美香子教授、前野隆司教授 アグリゼミメンバー



(写真：農業体験の様子)

3. 主なヒアリング結果

①ふれあい体験農園みたむら (SDM契約農園)



園主 三田村 雅人 氏

事業内容) 農業体験、契約者直接販売、オーナー畑貸借など計8ha所有

(主なヒアリング内容)

- ・農業体験を通じて、食を巡る昨今の事件にも冷静な視点を保てる効果が子供にも出ている。
- ・オーナー畑システムは、単に場所を提供するのではなく、私のノウハウや知識を含めたサービスを提供することに価値や意味がある。
- ・化石燃料の高騰への対応として、農家への税制度などの公的支援以外にも、農機具の燃費に対する意識など農家自身が変えるべきこともある。

(主なヒアリング内容)

- ・子供達に、環境学習などで植物などが植わっている土と何も植わっていない土を比較し保水力の実験をすることで緑の大切さを教えている。
- ・休耕田だった場所の寄贈を受けて実行委員会のメンバーやボランティアが里山を整備したり里山的な空間作りを行っている。
- ・会員から会費を取らず、会計処理や会議を極力省略していることも特徴の1つである。

③ハサンベツ里山



森林の保水性の実験の様子
代表 高橋 慎 氏

2. 調査箇所一覧

今回調査を行った箇所は以下の表のとおり。

日時・時間	視察箇所	調査内容
【9月11日(木)】		
12時30分～14時30分	ホクレン農業総合研究所 長沼研究農場	野菜・米・花の品種改善現場の視察・ラジオ出演
15時～17時	メノレッジ長沼	CSA(地域が支える農業)の見学
17時30分～18時30分	長沼ツーリズム協議会	グリーンツーリズム参加小学生の様子等のヒアリング
【9月12日(金)】		
9時～13時	三田村農園(SDM契約農園)	農業体験と「認識と行動」の関係調査
12時30分～17時	中野ふあ～む(SDM契約農園)	農業体験と先進事例調査
【9月13日(土)】		
9時～10時30分	はさんべつ	植林手伝い・里山プロジェクトヒアリング
10時30分～11時30分	小林酒造	第2酒蔵見学
13時30分～17時30分	ノーザンホースパーク	サラブレッド生産見学

②中野ふあ～む (SDM契約農園)



代表 中野 義治 氏

事業内容) 農業体験、B&B、菜種油直販など 計25ha所有

(主なヒアリング内容)

- ・菜種を滝川で初めて栽培するきっかけは、海外での菜種油精製プロセスへの懐疑心だった。国産品で安全な油を作りたいという動機が自分を動かした。
- ・そばを栽培するに当たっては、循環型栽培を意識して菜種の油絞りカスを土壌へ還元するなどの工夫を行っている。
- ・自分の考えやアイデアを即実行して結果がわかる農業は、自分の「自己表現」の場と考えている。常に昨日とは変わったことをやろうという気持ちが、菜種やナバナ、ごまの栽培へつながった。

④ノーザンホースパーク



皆さんも知っているディープインパクトの様子
代表 吉田 勝己 氏

(主なヒアリング内容)

- ・元来馬主の満足度を考えて設計されたテーマパークである。
- ・富裕層が大半を占める馬主であるので、接客レベル、食事のレベル、景観のレベルで満足度は高くなるという関係があると考えられる。

4. 現場から得た教訓

- 地域とのつながりを大事にしつつ、周囲との軋轢を乗り越え新たなことに自ら考え行動している点が共通していた。
- また、**楽しみを利益につなげる姿勢**からも学ぶべきことは多い。
- 農作物の新規開発については、農家や消費者の要求事項から始まり、種子・育成方法・流通保存・残渣活用などへの要素分解、試験栽培、品質評価などといった「**Vモデル**」的な観点でのシステム開発が適用可能である。
- 「自然はただ残せばよい」という単純発想から、**自然を取り込み活かす「環境共生」**を考える新たな視点へのシフトが重要。